資料 1

会 議 録（案）

会議の名称	令和６年度　第３回西東京市環境審議会
開 催 日 時	令和７年１月27日（月）午後５時から午後６時40分
開 催 場 所	西東京市役所田無庁舎５階503会議室
出　席　者	【委　員】宇賀神委員(◎)、岡本委員、田村委員、花房委員、日野委員、真中委員、吉田委員、伊藤委員、浅加委員 ※◎：会長 【事務局】白井みどり環境部長、中澤みどり環境部環境保全課長、三城みどり環境部環境保全課環境保全係主査 【傍聴人】　なし　　【欠席者】　矢守委員
議　　題	（１）令和６年度第２回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について （２）西東京市第２次環境基本計画後期計画の施策の進捗について （３）その他
会議資料の名　　称	資料１　令和６年度第２回西東京市環境審議会会議録(案) 資料２　西東京市第２次環境基本計画後期計画実績報告書
記 録 方 法	□全文記録　■発言者の発言内容ごとの要点記録　□会議内容の要点記録

会 議 内 容

＜１　開会＞

（事務局より出欠席者及び傍聴希望者、配布資料の確認）

＜２　議事＞

（１）令和６年度第２回西東京市環境審議会会議録（案）の確認について

○会　長：　議題（１）第２回西東京市環境審議会会議録（案）の確認について、事務局の説明を求めます。

（事務局より、会議録について説明）

○会　長：　今、事務局より説明がありましたが、修正等があれば挙手をお願いする。

○委　員：　私の発言について、一部修正をお願いする。

○会　長：　他になければ、会議録についてご承認いただいたということでよろしいですか。異議なしと認め、会議録については承認しました。

（２）西東京市第２次環境基本計画後期計画の施策の進捗について

○会　長：　それでは、議題（２）西東京市第２次環境基本計画後期計画の施策の進捗について、事務局より説明を求めます。

（事務局より説明）

○会　長　　まず今回事務局より今期後期計画の施策の体系の考え方について説明がありました。確認、質問等はありますか。

○委　員　温室効果ガス排出量の基準年度排出量59万８千トンCO_2は何から持って来ているのですか。

○事務局　　オール東京62市区町村共同事業の「みどり温暖化防止プロジェクト」が集計をしており、西東京市のデータを掲載しています。

○委　員　この数値は事業者と市民が排出しているものを合算した数字ということですか。

○委　員　　西東京市全体のCO_2排出量ということになります。分野としてはかなり網羅的で、家庭、産業、業務、廃棄物などが入っています。産業廃棄物は入っていませんが、鉄道なども入っています。

○委　員　　これは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトで検索すると計算根拠のもとに排出されているかわかるのですか。

○委　員　　出していると思います。根本の部分は東京都から受領している自治体別の電気および都市ガスの販売データに基づいています。部門別への割り振りについては様々な統計データを使って按分を入れるのですが、例えば東京都内の建設業に係るCO_2排出量を、自治体別の建築着工床面積を使って割り振るということを行い、部門別に二酸化炭素排出量を割り振って算定しています。

○委　員　　これは使用量からCO_2を割り出しているという見方でいいですか。

○委　員　　正確にいうと販売量になります。ただし電気と都市ガス以外、例えばプロパンガスや灯油などは各統計を使って推計します。自動車由来のCO_2排出量に関しては東京都から自治体別のデータが提供されています。

○委　員　　車の移動は移動距離をある程度使って計算するのですか。

○委　員　　そのようにしていると思います。東京都からは自治体別の二酸化炭素の排出量だけでなく、走行距離も提供されています。割り算して１走行距離あたりのCO_2排出量を確認すると、想定値と思われる値が確認されるので、走行距離データに１走行距離あたりのCO_2排出量の想定値をかけて推計をされているのだろうと思います。

○委　員　　これは第２次環境基本計画の実績報告書ということで、第３次計画にどれくらい継承されてどこが変わったか、ここにもっと重点を置いたのかな

ど教えていただきたいです。

○事務局　　例えば、第２次後期計画の基本施策３ですが、低（脱）炭素となっています。元々後期計画では低炭素社会の実現となっていましたが、より強く「脱」、ゼロを目指そうというように変わっております。カッコがけで脱になっているのは、この計画期間中に、ゼロカーボンシティ宣言をしたため、脱炭素とある意味読み替えるような形にして、計画の取組をスピードアップさせるために別途ゼロカーボンシティガイドラインというのを作りました。第３次計画は、このガイドラインを引き継いでいるということもあり、実際に脱炭素社会、CO_2排出をゼロに向かっていこうという基本方針１の部分に重点を置かれている取組となっております。

第３次計画は、令和４年度と５年度の２か年で計画を作ったものですが、特に第２次後期計画の中から活かせるものは残しました。また新たに当時あまり考えていなかった、より斬新的な取り組みを載せるといったイメージになります。生物多様性については生物多様性地域戦略として入れてはいるのですが、あとは基本的にはほぼスライドのようなイメージです。

○委　員　　２ページに目標が26％減と、ゼロカーボンシティだと46％減ということで二重に目標を掲げているように見えますが、これは途中から目標が引きあがっているから後期計画の時と今のゼロカーボンで差が出ているという理解でよろしいですか。

○事務局　　そうです。あくまで後期計画の中では例えば国基準だと26％減だったのでこの表に書いてはあるのですが、その中でゼロカーボンシティガイドラインで2013年度比46％減という目標としておりますので、そういった意味だと２ページ下に書いてある32万３千トンCO_2、これが2030年度の目標値になります。

○委　員　　この評価は大変良い成績で、かなり達成出来たと捉えているのですか。

○事務局　　各施策の評価は、結果の評価ではなくて、各課で行っている取組が、スケジュール的なものに沿ってできたか、できていないかという評価になりますので、結果とは必ず一致はしていません。プロセス評価となります。

また、５年間の中で行えた年と行えなかった年というのがあり、基本的にその施策の総合評価とさせていただいています。

○会　長　　CO_2削減量などの結果評価と、市の活動ができたという評価の軸が違います。本当はこれが全てリンクするとよい話になりますが、環境政策はこれをやって数字にすぐ反映できるかという話は難しいので、その中で今回は純粋にまずやってきたものに対してしっかりできたかどうかという評価をしています。これだけ減らさないといけないとこういう状態になっているということだけご理解いただきながら進めさせていただきたいです。

（事務局、資料の説明）

○委　員　　基本施策１のＢ評価の理由は。

○事務局　　事業者による省エネ活動の実施のところで、令和４年度には市内中小企業者に対する空調設備の助成金を行いました。また、にしとうきょう環境アワードにおいて事業者表彰を行い、取組を啓発しました。ただし、アワードにおいては事業者の応募が少なかったことから、なかなか事業者活動を市民に啓発することが足りなかった部分もありました。このことから評価をＢとしております。

○委　員　　基本方針２の郷土資料室来館者数はコロナ禍の影響もあったということですが、５年度2,500人でなかなかこの域から脱していませんが、これは何か原因として考えられるものはありますか。

○事務局　　来館者数はコロナ禍で下がっており、令和５年のコロナ禍明けになり来館者数は増になりました。これから上がっていくだろうと担当者から聞いております。

○委　員　　ＰＲの仕方とか周知の仕方とかそういったところはどうなのでしょうか。

○事務局　　社会教育課では夏休みにワークショップや企画展を実施することで子どもを呼ぼうという努力をしています。社会教育課としても現状の数字で満足しているわけでは無いので今後引き続き努力をしていくというところです。

○委　員　　基本施策10の評価がＢだった理由にマイカップマイ箸の推進が衛生面でできなかったというのをもう少し具体的に知りたいです。

○事務局　　ごみ減量推進課の話では、マイバッグはホームページで啓発ができたが、マイカップマイ箸マイ容器はイベント等がコロナ禍で実施がされなかったところもあり、周知が出来なかったということです。やはり使ったものについてはリサイクルをどうするかというところの衛生面に課題があったという回答です。

○事務局　　衛生面の課題に補足ですが、所謂イベントで出店している業者の方でもイベント自体でなるべくマイカップマイ箸を持ってきましょうと投げかけようとするのですが、食中毒などいざ何かあったらという考えも並行して積極的に発信ができていなかったと聞いています。

○委　員　　基本方針２公園緑地面積の目標を達成されているそうですが、これには例えば都立公園の面積も入っていますか。

○事務局　　この数値の内訳を担当課より聞いていなかったので、確認します。

○委　員　　出典はここには書かれてないが統計値ですか、それとも市独自に調べられた数字ですか。

○事務局　　恐らく統計値だと思うのですが確認いたします。

○委　員　　基本施策７の生物多様性の保全活動ということで、都立公園もあるので、連携して生物多様性の保全活動をしたらいいのではないかと思います。それから外来種ではないのですが、カシノナガキクイムシの樫・クヌギ・楢への被害が近年多く、樹木の被害などはどうなのかと思います。

○事務局　　みどり公園課が所管をしておりますので、確認します。

○委　員　　基本方針３で１人１日当たりのごみの排出量は、令和４年度実績が全国４位、リサイクル率は全国９位ということですが、これは大変良い成績だと思います。この取り組みをもっと広く一般の人にも伝えればより削減されます。

○委　員　　そうなった背景は整理していますか。

○事務局　　個別収集、有料化です。まだ行っていない自治体もありますが、西東京市のごみ減量推進課の取組みが結果に現れていると聞いています。

○事務局　　多摩地区は最終的にごみを捨てるところが無いのです。23区は埋め立てすればいいのです。そういう過去の背景があり、基本的に多摩地区は総じてごみを出すのは少ないです。そういうところから全国的に見ても少ないのです。おそらく１位は小金井市だと思います。

○委　員　　生ごみを乾燥させると凝縮します。それをするための器具を助成してもらいたいです。

○事務局　　一度、平成27年度にやっていますが、芋など堅くて水分が少なくならないものがあったので、１年限りでやめています。市民から要望があるので、その水抜きを何らかの方法でごみ減量推進課がトライしてみようと考えております。もし実施するのであれば市報やこういう機会を通じてお伝えします。

○委　員　　私はその時に申し込んでずっと使っています。非常に小さくコンパクトになって乾いたもので出せるのでとてもいいです。生ごみで出すよりも体積がかなり減り、ごみ袋の使用数も減ります。

○委　員　　取組といった時に漫然と環境に良いというとどう取り組んでいいのか分かりませんが、ごみはやはりとても身近な事ですし、その袋も有料化しているので、それが少なくて済むのは即自分に返って来ることなので取り組みやすいと思います。

○委　員　　プラスチックトレイをスーパーに持っていくと回収をしてもらえます。しかし知っている人が少ないです。そこで回収されたものはエフピコという会社が純粋なマテリアルリサイクルに使うので、よりリサイクルのプラスになるという事実があります。こうした話は一般的に広がっていないので、マテリアルリサイクルの工場見学などその詳細な取り組みを知る機会を広げることでより再資源化の推進になると思います。

○委　員　　意外とプラスチックはすごくたくさん出ます。トレイは生ごみよりもかなりかさばります。家庭でもそのように思っているかもしれません。

○委　員　　トレイの回収は、自分のところのごみが減るのでお金もかからなくなるし、ごみの量自体の総数は一緒になりますが、おそらくリサイクルの効率はいいはずです。

○委　員　　プラスチックトレイやペットボトルは燃やしているのですか。リサイクル可能物として回収していないですか。

○事務局　　ペットボトルに関しては柳泉園に持っていき、そこから資源物、まさにマテリアルリサイクルで、個々の系列会社がそれをまた再資源化処理をしています。トレイに関しては透明のビニールの指定ゴミ袋に入れてもらえれば、川崎の工場に持っていってそこでまた再資源となります。

○委　員　　個々のご家庭でごみ袋を買っているので、自分の家庭から排出する分に関しての費用がかからないという意味においては先ほどのスーパーに持っていくというのもいいと思いますが、市は業者と連携しているので量が減ってくるとまた業者の選定も大変になってくるのかなとは思いました。

○委　員　　家庭で出るごみにするとトレイも全部まとめてとなるので、それを分けるのは相当大変なはずです。そうするとトレイだけ収集しているスーパーの方がその後のリサイクルがかなりやりやすいので、再資源化効率ではよいと思いました。

○事務局　　そういう視点はありますので、ごみの資源物でなにができるか担当課に伝えておきます。

○委　員　　基本施策７で、Ｂになったところが事業者に対する意識啓発となっていますが、具体的に事業者に生物多様性の啓発というのはかなり難しい話なのかなと思いますが、検討していますか。

○事務局　　生物多様性に何らかの関連がある事業者であれば別ですが、そこは難しいですが検討しなくてはいけないという考えはありつつも、実際には取組が出てこないというのが現状です。

○委　員　　事業者は事業に関係していないと取り組むのは難しいと思いますが、自分たちの会社名が広がっていくというところに繋がったりするのであれ

ば、生物多様性の保護に取り組んでいけると思います。活動資金をいかに民間から出してもらえるかという観点からすると、そういう使い方はあるのではと思いました。また、自然共生サイトというのが、国でやっているサーティバイサーティの目標の中であるのですが、西東京市内では個人で登録されている方もいます。また、割と広い土地自体を自然共生サイト登録して国として認められたりすると観光的な意味合いでネームが広がる可能性もあるので、ある程度土地を持っている所に企業と一緒に検討してみるというのもいいと思います。

○委　員　　全体の色付けがわからないです。例えば重要性・継続性・難易度・市民の活動の必要性などのバロメーターがわかりにくいと思いました。基本方針の性格というのか、これは本当に重要だがこちらは早くやらなければならないとか、これは継続して５年10年やらなければならないものだというような色付けをしたら面白いと思いました。

○会　長　　生物多様性はすぐにできるものではないので長い目で見るという事と、省エネルギーはスピード感を持ってやるという事などそれぞれが重要だとは思いますが、市としてこうやっていきたいというメッセージが弱いと感じます。

○委　員　　担当部署が評価したのをここでまとめているものですか。

○事務局　　各課で先ず自己評価をしてもらい、その自己評価は評価をするためにどういう取り組みをしたという取材をし、その内容が薄いとＢという細かい評価をしています。更に言うと基本施策毎に評価をしています。例えば４ページですと施策１施策２というのがあります。これにそれぞれ各課がいろいろな取り組みをしています。そこにＡやＢというものがあります。そこを内々に点数化して合計した点数というのをつけて最終的にこのＡという評価を出してくるという形になります。

○委　員　　年ごとにフィードバックするという形ですか。５ヵ年でこうなったという事ですか。

○事務局　　今回の調査は５年目の最終年度ですが、各年度は１年ごとで報告をして、今回は最終年度なので５年間合わせた評価で作った形です。ですから年度ごとでやり取りはもちろんしています。

○委　員　　第３次計画では、今回の評価基準は踏襲される形になりますか。

○事務局　　基本的には踏襲をしますが、より精密に評価点を精査できる部分については精度を高めていきたいと思っていますので、基本的には枠組み考え方は継続していくと思います。

○委　員　　この評価は各課にフィードバックされますか。フィードバックは必要だと思います。

○事務局　　今回、基本施策ごとに評価をしていますが、基本施策を評価する前にそれぞれの各課の取り組みを自己評価してもらい取材をしているので、その中で話をしていくという形です。自己評価と差がでるものは、今後やっていくという形になります。

○委　員　　環境問題はありとあらゆるものを包含しているものなので、例えば文京区では環境審議会には各課長が出てきます。ですから情報が各課に伝わって議論できます。やはり我々がこういう事をやるべきだと言ってもなかなか簡単にはできません。一方で他課と連携できると、こういう事はできますという話が上がってきたりするので、理想を言えばそういう事になると思います。どこかで少なくともこういう情報提供というのが市役所の中でしっかりできるといいと思います。
　もう一つはいろいろ評価がありますが、Ａとはいえ簡単にできてしまったものと必死にやってなんとかＡになったもの、また、仕方なくＢになったものもあれば、先ほどの事業者に対する生物多様性の意識啓発のように非常に難易度が高くてＢになっているものもあると思います。その辺のすみ分けがあるといいと思いました。

○委　員　　目標がフィットしているかどうかもある。生物多様性は事業者とフィットしていないけれど敢えて行う、あるいは環境白書に載せるような大きなモチベーションの場合は生物多様性でもいいのかと思います。

○会　長　　環境審議会の声としてこういう事が出ているという話を是非フィードバックしてください。

○委　員　　後期計画のコラムにあるかつて身近な植物だったムラサキソウ、こういうのがすごくわかりやすいと思います。市民の方でムラサキソウを育てて癒されている人がいるのでみんなも育ててみませんかというような、そういうシンボリックなものは取り組みやすいと思います。
　それから石神井川の清掃活動。みどりの愛護功労者国土交通大臣賞というのがあり、長く続けていて非常にいい活動は全国的に知らせてあげて、それによってモチベーションが上がり先細りをしないでまた盛り上がると思います。

○委　員　　エコプラザの環境学習講座への参加数787人とありますが、これはオンラインではなくて対面ということですか。

○事務局　　オンラインを含んでいます。

○委　員　　目標の1,500人維持だとあと倍くらい増やす必要があり、対面だと現実的でないと思うので、オンラインであれば参加者数とその周知はよりしやすいのかもしれないと感じました。また、ハイブリッドですと参加人数を増やすことはできると思いました。
　また、環境保全活動の参加のアンケートに地域での環境保全活動に参加したことのある市民の割合が目標10.0%に対して8.6%ですが、これは市の

活動に参加したとかそういうのに限らないですか。

○事務局　　限らないです。

○委　員　　これを上げるというのはどうすればいいのか。市報で見ればいいのかもしれませんが、なかなかそのような活動が行われていることに自分も含めた市民が気づけていないというのが実態だと思っています。意識を高めることを含めて、その活動の開催を市民が知り、参加に意識がまわらなければいけないというのがあります。

○事務局　　環境アワードで表彰をして、そこで市民の皆さんと業者の皆さんがこういう活動していますとアピールをしてはいます。それを見て自分たちも参加しようと思ってもらえる目的でアワードを作ったということもあります。またイベント等は必ず市報とホームページに、今はSNSにも随時出しておりますのがなかなか増えないというのが現状です。

○委　員　　この8.6%の中身というのが今から過去に遡って聞けるわけではないと思うものの、後学のためにも今後機会があれば聞けるといいかと思いました。また、どのような活動だったら自分たちが参加できるのかというのはけっこう知っているようで知らないことで、そこを知る機会が増えるといいと思いました。

○委　員　　市民の方たち自ら、「ごみ拾いをするので参加できる人を募集しています。」などを発信しています。西東京市フェイスブック町というグループがあるのですが、その中の団体の皆さんがそこに参加しているメンバーの人に向けて発信をしています。また、事業者が中心ですが西東京ビジネス交流会を主催している方がいて、起業してスタートアップした会社、１人で独立した女性の方もたくさん入っていて、事業所として取り組んでいる、自分の仕事の延長線上でこういう仲間を募っていますということを発信し、身近にスマホで知ることができます。

○事務局　　この指標は、３次計画には入れてないです。これは計画を作る時にとったアンケートで無作為抽出した何百人の中での集計になるので、たまたまそこに活動している人が入っていれば上がるという不確定なものです。

○委　員　　さまざまな普及啓発活動を多方面で行っていると思いますが、普及啓発活動による温室効果ガス排出量削減効果算定は極めて難しくて、効いているのか効いていないかは実際のところわからない所です。そういう活動を１回行って、これぐらい効果があるというある意味強引な設計をするしかないのが現状です。一方、その普及啓発活動に使った資料集のようなものがあると、どのように啓発していたのかが分かり良いと思っていました。効果的な啓発資料のつくり方にはノウハウがありますので、たくさんチラシを配布すればいいかというと必ずしもそうでもありません。去年１年間に作ったチラシを見せてもらうと、もっとこんなチラシにしたらどうだろうかなど、改善の議論もできることがあると思います。

○会　長　　いろいろなご意見ありがとうございます。個人的には基本方針１のCO_2排出量をこの時期をしっかりやらなくてはいけないと思いますが、知恵を絞ってこの審議会でいろいろな意見を出し、西東京市を良くしていきたいと思います。

（３）その他

○会　長：　事務局の方からありますか。

○事務局：　次回、令和７年度になります。第１回環境審議会につきましては、７月頃を予定しています。内容は本日と同じように第３次環境基本計画の令和６年度施策評価をしてもらう予定です。

＜３　開会＞

○会　長：　それでは以上となります。お疲れ様でした。